市民のひろば

まちの声

◆年賀状の思い出（第9回かみかみクイズ応募から）

長い間会っていなかった友人と30年ぶりに再会できたのは、「元気にしてますか？」の一言を書き添え年賀状を交わしていた事。あれから10年立ちましたが、今度はいつ会えるかなあ。

◇　◇　◇

昔の職場の友人など、何年も会っていませんが、年賀状だけは毎年送りあっています。子供の写真などの年賀状を見ると、幸せな生活をおくっていることが、よくわかります。メールで済ますことが多くなっていると思いますが、やっぱり年賀状の方がもらって嬉しいですね。

◇　◇　◇

お正月を今年で2度目病院で迎えた母に年賀状を持って行きます。92歳の母。何度も何度も嬉しそうに読み返します。来年も持って行ってやりたいです。

◇　◇　◇

年賀と言えばハガキの中の幼い笑顔もいつの間にか大人に。結婚し、家族が増えて…。過ぎ去った月日の流れが早くあっという間に通り過ぎた過去がよみがえります。私にとって大切な年賀ハガキ。整理してはみるけれど捨てることができません。自分自身も年を重ねているのに。

◇　◇　◇

先日年賀状の整理をしていたら、小学生の時に友達からいただいた年賀状が出てきました。その友人も私同様3人のお母さん！なつかしい子どもの頃を思い出しました。

◇　◇　◇

年に1回の学生時代の友人と情報交換。年賀が届くと電話がかかり、1時間程おしゃべりし、すぐ40年前にもどることができる楽しい時間を過ごします。

◇　◇　◇

夫婦に抱かれて生まれたばかりの男の子。その成長。妹の女の子も参加。年々成長して、元気に可愛く、うれしい今年も笑顔と共に。時代と共に伝わり方もすばらしいものです。何枚まで重ねられるか、私の老後の課題です。楽しみです。

◇　◇　◇

作：山田高校マンガ部

編集後記

▼春は引越しのシーズン。市役所でも新庁舎への移転に向けての準備を行っています。過去の広報誌を整理していると、昭和の合併頃の広報誌も保管されており、広報誌の歴史の長さにおどろきを感じました。

▼今月号の編集では、震災により記事の取り消しがあり、入稿直前に記事の差し替えがありました。東北地方太平洋沖地震により、被害を受けられました皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

（細木）

おたんじょうびおめでとう

今月満１～３歳の誕生日を迎えるお子さんを紹介します。

掲載を希望される方はお問い合わせください。締切日は誕生月の前月１日まで。

問 総務課☎53－3112

香美史探訪記

第23回 小松神社（物部町別役）

物部町別役の小松神社は、延長５年（９２７年）神名帳に選ばれた県下２１社の一つで、延喜式内社と呼ばれる官社であって、古社であり格式の高い神社である。

物部町岡ノ内から案内板で市道を６㎞ほど行くと、石鳥居と駐車場があり、３７３段の階段を下がると社殿に至る。

神社の祭神及び勧進の経緯は明らかでないが、御神体は鏡である。奉納されている鏡の最古のものに**網代松喰鶴鏡**（あじろまつくいつるきょう）と呼ばれる平安時代の渡来鏡がある。狛犬（こまいぬ）は、僧**行基**（ぎょうき）が正観太夫に彫らせたものと伝えられ、江戸時代の手洗鉢にも寄贈者の名が見える。谷秦山は、**土佐國式社考**の中で、槇山には小松姓が多いので、先祖を祭ったものであろうと書いている。即ち、秦の始皇帝の子孫**功満王**が仲哀天皇の８年に帰化しているが、これが小松氏の祖と言われている。また、養老官道（717～723）が槇山谷を通っていたとする説がある。那賀川―四ツ足峠―物部川―土佐国府に至る道で、土佐国の産物や人の往来があったとすると、駅家（中継所）も置かれて賑わったものと思われる。夏の大祭には、麦の一夜酒も振舞われたと言われるので、古代のロマンに満ちている。

▲小松神社の狛犬

▲小松神社の網代松喰鶴鏡

森閑の中で、古代への思索には申し分のない環境にある。なお、祭礼は、「海の日」と「勤労感謝の日」に、氏子会が開催し、夏の祭りには麦麹の御神酒を供え、秋祭りには松明で通夜祭が恒例となっている。**地図は17ページに掲載。**

（香美史談会）

功満王の伝説

秦の始皇帝は、紀元前２１９年、**徐福**以下５千人を、東方にある神の国に派遣して、不老不死の薬を求めさせた。九州や四国の各地に到達したと言う伝説があり、新宮市や熊野市には、**徐福の墓**と称するものもある。この内、四国に到達したのが**功満王**である。なお、長宗我部元親の長宗我部家は、**秦王**を祖としている。稲作技術の日本伝来など、中国から東への人と文化の流れに合致して興味深いものがある。

（物部村ふるさと文化のしおりより）

ただいま留学中㊼

ウライウォン ピリヤ（タイ・バンコク）

私はフロンティア工学博士後期課程の1年生です。昨年の4月にバンコクから来ました。社会システムマネジメント研究室で水システムを研究しています。水の研究はこれからもとても重要な研究課題の一つだと思います。今日はタイの『水』に関するお祭り**ソンクラーン**を紹介します。別名**水祭り**とも言います。祭りは4月13日に始まり、地域によって違いますが、3～10日間続きます。

ソンクラーンは新暦の始まりを意味するサンスクリット語です。もちろん、現在は1月1日に正月を祝いますが、タイの人々にとって、ソンクラーンは非常に重要な伝統行事です。

ふるさとに帰り、家をきれいに清掃し、精神を清める儀式を行い、仏像をきれいにし、尊敬の意を込めて両親や祖父母の両手に水を丁寧に注ぎ、贈り物をします。そして年長者は年少者の幸福を祈ります。実はこのころはタイで最も暑い時期で、水かけで猛暑を和らげるのです。

祭りのとき、昼近くになると人々は道路に出て、にぎやかに水かけを始めます。通行人は誰もが全身びしょ濡れになります。水かけによって、厄を落とし、清らかに新年を迎えるという儀式です。これは日本の皆さんとも共通する感覚でしょうか。外国からもおおぜい観光客が来ます。バンコクではカオサン通り、夜も祭りを楽しめるシーロム通りが有名です。真夜中までにぎわい続けます。

香美市の皆さん、ぜひ、タイのお祭りにおいでください。

留学生のサニーさんとウライウォンさん（右）▶